

認知症サポーター優良活動事例とサポーターステップアップ講座展開優良事例 表彰団体一覧

自治体等認知症サポーターの活動事例

●上砂川町地域包括支援センター (北海道 上砂川町)

◆認知症サポーターと行政の協同により生まれた介護予防重視の認知症カフェ

選考理由: 認知症サポーターである住民がまちづくりの担い手となることを見据えた内容でステップアップ講座を開催することからスタートし、住民サポーターと行政が一堂に会し地域の課題を検討した結果として「認知症まちなかカフェ」の立ち上げにいたる。介護予防事業と連動した認知症カフェの運営が、カフェ利用者、認知症サポーターともに楽しみながら介護予防につながる効果を上げている。

●東伊豆町認知症にやさしい町づくり連絡会ニューサマーオレンジ (静岡県 東伊豆町)

◆町内会と企業とのネットワークを生かし、行方不明高齢者ゼロのまちへ

選考理由: 認知症サポーターの自主組織「ニューサマーオレンジ」を結成し、地域の認知症の人本人の具体的な個別ニーズに応じた支援を展開中である。スーパー、金融機関、交通機関等の企業や町内会など多様な機関との協力により、行方不明高齢者を出したことがない、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを実現している。

●社会福祉法人 益城町社会福祉協議会【特別賞】 (熊本県 益城町)

◆仮設団地のサポーター発案の認知症カフェが、住民同士支えあう土壌をつくる

選考理由: 平成 28 年 4 月の熊本地震後、避難所や仮設団地で暮らす高齢者の認知症の症状が悪化した現状に対応すべく、立場の異なる多職種のキャラバン・メイトによる連絡会を発足させた。仮設団地や災害ボランティアを網羅した認知症サポーター養成講座を行う過程で、住民自らが認知症カフェ開催を提案、住民同士が進んで支え合う関係性を構築し、災害復興に果たした功績はきわめて顕著である。

●群馬県認知症アンバサダー「あかぎ団」【特別啓発事例】 (群馬県)

◆ご当地アイドル、認知症サポーターとして活動中

選考理由: ご当地アイドル「あかぎ団」メンバー全員が、自ら認知症サポーターになり積極的に認知症関連の啓発活動を継続している。各種イベントで認知症サポーターについて PR するなど、ファンのみならず多彩な住民層を巻き込んで、認知症への正しい理解を広げている功績は大きく、何より楽しく、現代的な活動手法は評価に値する。

●敦賀市【特別啓発事例】 (福井県 敦賀市)

◆小学生サポーター原作の教育映画がさらなる認知症啓発の扉に

選考理由: 小中学校で開催する認知症サポーター講座で「自分はなにができるか」を考える機会として、小中学生サポーター対象に作文コンテストを実施。最優秀作品を市民をあげて教育映画にした。認知症を理解する風土が醸成された地域で、さらなる普及啓発につながる実践的な試みといえる。

認知症サポーターステップアップ講座展開事例

●杉並区地域包括支援センターケア 24 善福寺 (東京都杉並区)

◆課題解決型ステップアップ講座で、ボランティアの対応スキルを上げる

選考理由: 地域サロンで活動中のボランティアを対象に、現状における課題解決に資するロールプレイング等を取り入れた、実践的で双方向型のステップアップ講座を展開している。その結果、知識とスキルに裏づけされ、自信をもった対応のできるボランティアチームとして活動することで、認知症の人をはじめサロン利用者に随時必要とされる支援を実現している。

●広島市 健康福祉局 高齢福祉部 地域包括ケア推進課 (広島県広島市)

◆サポーターの学習意欲に則ったステップアップ講座から地域のニーズを満たす活動を展開

選考理由: 認知症サポーターが自ら課題を発見、対応や交流の仕方、活動の企画を立てる内容を盛り込んだ、活動の発案など活動の継続に結びつく綿密なカリキュラムに基づくステップアップ講座を実施している。認知症カフェを立ち上げたことをはじめ、傾聴、見守りなどの活動に率先して関わり、地域包括支援センター等とも連携のとれた実践を進めており、認知症サポーターの学習・活動意欲を地域のニーズに対応させる取り組みとして優れている。

企業・職域団体における認知症サポーターの活動事例

●愛知信用金庫

◆地域の実情を熟知し、自治体との協力基盤をもつ金融機関の挑戦

選考理由: 職員の大半が認知症サポーターとなり、県内各自治体、地域包括支援センターとの協力体制を構築し、業務を通して継続的に見守り等に貢献している。さらに職員が自治体のキャラバン・メイトとなり、地域包括支援センターと連携を図り認知症サポーター養成講座の講師を務めることにより、特殊詐欺等を未然に防ぐ取り組みなど金融機関の特性を生かした活動として高く評価される。

●朝日新聞社および朝日新聞グループ

◆新聞販売所スタッフから新聞社社員まで、認知症の正しい理解普及に取り組む

選考理由: 140年の歴史を誇る新聞社として認知症の人本人の視点に立った報道、情報発信を行う業務と並行して、地域住民と接点の大きい全国の販売所(ASA)従業員をはじめとする職員 5000人超が認知症サポーターとなり、地域での見守りや、認知症の理解を促進する広報の実績を着実に積んでいる。

●株式会社 イトーヨーカ堂【継続・発展事例】

◆行政、店舗社員との連携のもとに進化する総合スーパーの実践

選考理由: 業務を通じた見守り事業や、認知症カフェ、啓発イベント開催等、地域住民でもある店舗勤務社員による認知症サポーターとしてのアイデアを生かし、地域の実状に応じた活動を継続、発展させており、生活関連企業の取り組みとして評価される。店舗と自治体との連携、また店舗と企業本部との連携も密接で即時性があり、確実に地域のニーズを満たしている。

平成 30 年度 認知症サポーター優良活動事例と 認知症サポーターステップアップ講座展開事例

選考評価のチェックポイント

● 「認知症サポーターの活動事例」

- ①多職種のメンバーで構成され、各サポーターの属性、特色を生かしているか。[多職種構成]
- ②自治体等地域の関係機関との連携が図れているか。[連携]
- ③地域の実情に応じた工夫がなされているか。[工夫]
- ④地域における認知症の人・その家族が活用しやすい機能を備えているか。[活用のしやすさ]
- ⑤活動地域で受け入れられ、評価されるべき活動実績があるか。[活動実績]

● 「企業・職域団体における認知症サポーターの活動事例」

- ①自治体等地域の関係機関との連携が図れているか。[連携]
- ②業務の特徴に応じた工夫がなされているか。[工夫]
- ③活動地域で受け入れられ、評価されるべき活動実績があるか。[活動実績]

● 「認知症サポーターステップアップ講座展開事例」

- ①受講者の実践活動に結びつくように工夫をして講座が組み立てられているか。[工夫]
(活動に役立つ内容が盛り込まれているか、活動内容の発案機を促す内容があるか 等)
- ②講座修了者が地域で必要とされる活動を実践しているか。[実践]

平成30年度 認知症サポーター優良活動事例と 認知症サポーターステップアップ講座展開事例 選考委員会

選考委員

50音順

委員長	大森 彌	(東京大学名誉教授 ／NPO 法人地域ケア政策ネットワーク代表理事)
委員	浦上 克哉	(鳥取大学医学部保健学科教授)
委員	亀井 利克	(三重県名張市市長)
委員	斎藤 正彦	(東京都立松沢病院院長)
委員	鳥海 房枝	(特定非営利活動法人メイアイヘルプユー 事務局長)
委員	玉井 顯	(敦賀温泉病院理事長・院長)
委員	古川 貞二郎	(恩賜財団 母子愛育会理事長)
委員	堀田 力	(公益財団法人さわやか福祉財団会長)
委員	森 貞述	(前愛知県高浜市市長)
委員	山口 晴保	(群馬大学名誉教授)
委員	菅原 弘子	(全国キャラバン・メイト連絡協議会 ／NPO 法人地域ケア政策ネットワーク事務局長)
オブザーバー	井上 宏	(厚生労働省老健局総務課 認知症施策推進室 室長補佐)